

京芸通信 VOL.28

KYOGEI TSUSHIN

京都市立芸術大学 広報誌 第28号
February 2022



特集

音楽学部 創設70周年

大嶋義実 × 砂原 悟 × 山本 毅

鼎談：音楽学部の70年を振り返る



京芸トビックス

2021年下半期の京都芸大

教員リレーコラム

齋藤 桂 日本伝統音楽研究センター 講師



お知らせ

新任・退任教員／移転整備／ご支援のお願い

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

NEW
CAMPUS 2023
京都芸大は移転いたします

鼎談：音楽学部の70年を振り返る

SUNAHARA
Satoru

学部長

砂原 悟
ピアノ奏者YAMAMOTO
Tsuyoshi

研究科長

山本 毅
打楽器奏者OSHIMA
Yoshimi

副学長

大嶋 義実
フルート奏者音楽学部
創設
70周年

※撮影時のみマスクを外しています。

京都の街に守られて

2022年、京都市立芸術大学音楽学部は創設70周年を迎えます。1952年に全国初の公立音楽大学として京都市立音楽短期大学が創設され、1969年に京都市立美術大学と統合して現在の京都市立芸術大学の音楽学部となりました。そして2023年度には京都駅東部へ移転を予定しており、音楽学部も新たなステージへと向かいます。今号では、副学長、学部長、研究科長の3名が、この70年を振り返るとともに、1年後に移転を控えた音楽学部の未来について鼎談しました。

— 70周年を迎えて、今の思いをお聞かせください。

大嶋 「先人たちに対する感謝」。それが70年という年月を振り返った時に一番に湧いてくる気持ちです。創設時の1952年という年は、まだまだ戦後の雰囲気が残り、貧しい時代。皆食うや食わずの時代に、音楽なんていう食えもしない大学をよくつくってくれたなと思います。創設に関わった人たちに、「困難な時代の中、よくぞ音楽短期大学を立ち上げてくださいました。」とまずは御礼を言いたい。

— 昭和30年代後半から40年代初めには短大存続の危機があったそうですが、それを乗り越えて70年間続いてきた理由は为什么呢？

大嶋 短大を廃止するという話は確かにありました。結果的には美術学部と統合することで芸術大学として生き残ることができました。

山本 大学が存続の危機にさらされた時に、卒業生が大学存続のための署名集めをしたり、市議員にご説明に回ったりと奔走してくださったそうです。卒業生が母校の学生のことを真剣に考えてくださっているというところがこの大学の大きな特徴ですね。



「京都市立音楽短期大学」創立当時の合奏授業風景
1952～55(昭和27～30)年頃

砂原 卒業生の協力はもちろんですが、京都市会で短大廃止の議論から存続へと舵が切られたのも、京都ならではの判断だと思います。当時もお金の問題はあったと思いますが、何とか残してくれたのは京都の人の気持ち。

大嶋 砂原先生は東京藝大のご出身ですが、東京と京都の違いを感じられますか？

砂原 東京藝大も京都芸大と同じく自由度の高い大学でした。しかし街に関しては、京都という街には芸事を愛している空気があり、そこが東京と大きく違うところだと思います。京都の市民は芸事が好きだし、いろんなことに興味をもって出かけている印象があります。また、京都には簡単に切り捨てず残すものは残す心がある。新しい物好きなところもあるけれど、その両面があるアンビバレンスが街として面白い。

大嶋 確かに京都市民の特性として「芸事好き」というのはありますね。クラシックに限らず、芸事が人生の中にあって当たり前という感覚が街自体にあって、大学もそれに育てられている面があると思います。

京都市立芸術大学 音楽学部 70年の歴史

- 1952年 京都市立音楽短期大学開校（音楽学部の前身）＊校舎は北区出雲路立本町
- 1953年 第1回定期演奏会を開催
- 1956年 左京区岡崎へ移転
- 1969年 京都市立美術大学と統合して京都市立芸術大学音楽学部となる
（5専修：作曲、ピアノ、弦楽、管打楽、声楽）※「専修」…現在の「専攻」
- 1980年 京都市立芸術大学創立100周年を迎える
記念演奏会を大阪フェスティバルホールで開催
西京区の現在地へ移転
- 1986年 大学院音楽研究科修士課程を設置
（3専攻：作曲・音楽学、器楽（ピアノ、弦楽、管・打楽）、声楽）
- 1987年 大学院第1回オペラ公演を開催
- 1990年 京都市立芸術大学創立110周年記念コンサートを開催
- 1992年 コロラド夏季音楽祭にて「京都市立芸術大学特別公演」開催
- 1998年 100回記念定期演奏会を京都コンサートホールで開催
指揮は卒業生の佐渡裕氏
- 2000年 京都市立芸術大学創立120周年ブラハ公演を敢行
日本伝統音楽研究センターを設置
- 2002年 音楽学部創設50周年祝賀記念式典を挙行、ドイツ公演の開催
学部に音楽学専攻を設置
- 2003年 大学院音楽研究科に博士（後期）課程を設置
（4研究領域：作曲・指揮、器楽（ピアノ、弦楽、管・打楽）、声楽、音楽学）
- 2004年 修士課程を4専攻に再編
（作曲・指揮、器楽（ピアノ、弦楽、管・打楽）、声楽、音楽学）
- 2010年 京都市立芸術大学130周年を迎える
130周年記念として、第136回定期演奏会「更なる復活」を開催
- 2012年 音楽学部創設60周年祝賀記念式典を挙行
英国王立音楽大学（イギリス）・檀国大学校音楽大学（韓国）との交流演奏会を開催
東京藝術大学との交流演奏会を開催
- 2013年 修士課程に日本音楽研究専攻を設置
- 2014年 管・打楽専攻の専攻細目にサクソフォンを追加
- 2021年 管・打楽専攻の専攻細目にユーフォニウムを追加
- 2022年 音楽学部創設70周年を迎える

砂原 歌舞伎の創始者と言われる出雲の阿国が、京都の四条河原で踊って一世を風靡したのは有名な話ですが、その鴨川近くに我々が移転するというのは、何かの大きなご縁を感じます。

大嶋 その通りですね。京都芸大があつた土地に呼び寄せられているようにも感じています。

山本 京都市が京都駅のすぐ隣の土地に芸術大学を移転させるという判断をしたのは、京都という街がこれからの未来に何を街の看板にしていけるのかということを見事に表しています。経済的には、オフィスビルやショッピングモールを建てた方がいいのかもしれない。しかし人間が大切にされる、人間が人間たる所以は芸術があることだと私は思います。その芸術が育つ場所、生きる場所を駅のそばに置いたことはとても大きなことで、素晴らしい決断だと思う。

— 昭和55年から現在の沓掛キャンパスとなり、約40年もの間お世話になっていますが、思い出や印象的なことはありますか？

大嶋 私は学生として、また教員としても沓掛校舎に通いました。数年前に無くなってしまいましたが、裏手にあつた水田の稲が少しづつ成長する姿や、田植え前のレンゲ畑を目にしながら大学に来るのが楽しみでした。自然豊かな環境に四季の変化が身近に感じられるのが嬉しかったです。

砂原 美術学部と音楽学部がひとつのキャンパスに結びつくことができたきっかけも沓掛でした。両学部はこれまで、この自然に恵まれた沓掛キャンパスのゆったりとした雰囲気の中で成長できたと思います。沓掛・洛西地域の皆さまには、これまで支えていただき心より感謝しています。この地でのご恩を忘れず、今後も精進したいと思います。



新キャンパス外観 イメージ

— 移転後の大学では、どのようなことを期待していますか？

砂原 社会との垣根をつくらない「テラスのような大学」をコンセプトに移転を進めてきましたが、より地域や社会の声が届きやすくなることを期待しています。

山本 岡崎にいた時は外から学生が何をしているかが丸見え



堀場信吉記念ホール イメージ

で、練習している音も丸聞こえでした。京都駅東部は人通りの多い場所なので、学生の日常がなんらかの形で見える工夫ができたと思います。また、いろんな演奏会を開催していますので、市民の方々にたくさん聴きにきていただくことで社会に貢献したいと思っています。

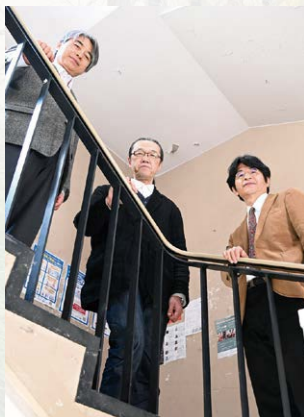
新音楽ホール名に込めた

70年間変わらぬ思い

— 移転後の新音楽ホール名を「堀場信吉記念ホール」にすることが決定しました。最後にその思いをお聞かせください。

山本 70年前に、京都市立音楽短期大学の初代学長であった堀場信吉氏は、「これからは音楽・文化の時代なんだ。今は食べるのが大変かもしれないけれど、これが絶対に日本の役に立つ時が来る。」というお気持ちで学長職を引き受けてくださったと聞いています。新音楽ホール名は、70年前の貧しい時代の中、芸術の価値を理解し、音楽学部を築かれた堀場信吉氏への敬意です。

大嶋 堀場信吉氏自身は物理学者ですが、ドイツへの留学経験をお持ちで、ご自身でもヴァイオリンを演奏されたそうです。おそらく、音楽が根付くヨーロッパの文化の深さに触れ、それが京都の地でも必要であると感じておられたのだ



と思います。また、株式会社堀場製作所会長である堀場厚氏のご祖父様にあたり、堀場会長は、信吉氏に会いに当時の岡崎の学長官舎にいられたこともあるそうです。そのようなご縁もあり、堀場製作所とは先日、教育環境充実等に関する連携協定を締結したばかりです。

山本 移転しても変わらない、変わってはいけない原点を確認するために、ホールの命名は私達にとって必要なことでした。我々は先人の貢献を忘れないという思いからです。

砂原 移転後のホールで、どのような新しい音楽が生まれるのか。今からとても楽しみにしています。そしてその音楽を京都の方々や京都を訪れるたくさんの方々にお届けしていきたいと思います。

大嶋 義実（おおしま・よしみ）教授・副学長/フルート奏者

1981年京都市立芸術大学卒業、1984年ウィーン国立音楽大学を最優秀で卒業。ブラハ放送交響楽団首席フルート奏者、群馬交響楽団第1フルート奏者を経て、1997年より本学教員。13枚のCDはいずれも内外の音楽誌上等で高い評価を得る。著書「音楽力が高まる17のなに」（2011）。

砂原 悟（すなはら・さとる）教授・音楽学部長/ピアノ奏者

1987年ミュンヘン音楽大学マイスタークラス修了。1988年東京藝術大学大学院修士課程修了。2011年より本学教員。ポルト国際ピアノコンクール入賞（1987）、クロイツァー賞受賞（1988）。CD「クラヴィコードの植物文様」が月刊誌「レコード芸術」で準特選を受ける（2008）。

山本 毅（やまもと・つよし）教授・音楽研究科長/打楽器奏者

1979年京都市立芸術大学卒業。デュッセルドルフ国立音楽大学で打楽器を、アンテオケ国際宣教師学校でキリスト教神学を学ぶ。札幌交響楽団打楽器奏者を経て、1991年より本学教員。ユーオーディア管弦楽団、いずみシンフォニエッタ大阪、アンサンブル・フィリア等で演奏。青山音楽賞・バロックザール賞受賞（2000）。

京芸人ピクアス

2021年下半期の京都芸大

京都芸大の最近の活動や、主なトピックスをご紹介します。

新キャンパスの最寄駅で芸術の秋を。 京都駅ビルで京都芸大のイベントを多数開催！

「京都駅ビル芸術祭～中継地点from京芸～」

7階 東広場 10月23日～11月7日開催

作品展示、工芸マルシェ&ワークショップ

駅前広場 10月23・24日、11月6日・7日開催

ライブペイント

京都駅ビル開発株式会社と連携し、美術学部・美術研究科の学生による作品展示や工芸マルシェ、ワークショップを行う「京都駅ビル芸術祭2021」を開催しました。会期中は駅前広場で在学生による巨大なライブペイントも披露。学生たちの若い感性をお届けしました。

「駅ピアノ♪マンスリーコンサート」

7階 東広場 毎月1回開催

令和3年4月より、京都駅ビル東広場北ピロティに設置している「駅ピアノ♪」を活用した、在学生や卒業生による定期コンサートを開催しています。

「作品・新キャンパス模型展示&ミニコンサート」

西口広場 10月2日～11月13日開催

京都駅ビル西口広場では、美術専攻の学生が、今回新たに制作した日本画作品を展示し、移転整備事業のPRのため新キャンパス模型の展示も実施しました。開催初日の10月2日には、赤松学長による挨拶と、展示作家の紹介、そして在学生による弦楽四重奏を披露。10月23日にもミニコンサートを開催しました。



「京都駅ビル芸術祭」展示風景



京都駅前広場ではライブペイントを実施



マンスリーコンサートの様子



展示の様子



日本画：高木祐利さん（修士課程美術専攻）



弦楽四重奏：音楽学部在学生

指揮に秋山和慶客員教授が登場！ 第167回 定期演奏会

12月10日、京都コンサートホール大ホールにおいて、音楽学部・大学院音楽研究科による第167回定期演奏会を開催しました。

今回は、秋山和慶客員教授の指揮の下、モーツァルトの歌劇〈魔笛〉序曲での幕開け、壮大な合唱とともにお届けするミサ曲〈戴冠ミサ〉、そして、マーラーの交響曲第5番をお送りしました。



秋山和慶客員教授



【曲目】W.A.モーツァルト／歌劇〈魔笛〉序曲、ミサ曲 K.137 〈戴冠ミサ〉
G.マーラー／交響曲第5番 嬰ハ短調

在学生・卒業生の活躍

3回生の藤井虹太郎さん「第90回 日本音楽コンクール」トランペット部門で第1位

10月27日、東京オペラシティコンサートホールで開催された「第90回日本音楽コンクール」トランペット部門本選において、音楽学部管・打楽専攻3回生の藤井虹太郎さんが第1位、瀬木賞、E.ナカミチ賞

及び岩谷賞（聴衆賞）を受賞されました。藤井さんは東京フィルハーモニー交響楽団との協奏曲を見事に演奏し、豊かな音色で聴衆を魅了しました。



藤井虹太郎さん



左から：指導教員の早坂先生、藤井さん、赤松学長、大嶋副学長

藤井虹太郎さんからのコメント

歴史と格式ある日本音楽コンクールにおいてこのような賞をいただき、大変光栄に思います。特にこのコロナ禍の約2年間は、演奏活動だけではなく大学生活でもとてももどかしい思いをしてきましたが、大好きなトランペットや音楽を続けていて本当に良かったと思いました。この賞を受賞できたのは、恩師である横田健徳先生、早坂宏明先生をはじめ、大学の先生方、両親、友人や先輩後輩の方々のおかげです。そして生前に誰よりも応援してくれていた祖母にも感謝を伝えたいです。この結果に満足せず、自分のやりたい音楽を追求し続けていきたいと思っています。

音楽研究科修了生の和田悠花さん 同コンクール 声楽部門で第2位

10月26日に行われた「第90回 日本音楽コンクール」声楽部門本選において、大学院音楽研究科修士課程声楽専攻修了生の和田悠花さんが第2位を受賞されました。自由曲2曲を演奏する本選で、和田さんはベルカント・ハインプラノの大曲を歌い上げました。



和田悠花さん

2回生の井上帆乃香さん「第75回 全日本学生音楽コンクール 全国大会」で第1位

11月30日、横浜市の戸塚区民文化センターさくらプラザ・ホールで開催された「第75回全日本学生音楽コンクール 全国大会」チェロ部門 大学の部において、音楽学部弦楽専攻2回生の井上帆乃香さんが第1位を受賞されました。エルガーの協奏曲を繊細な音色で表現した井上さんは、成績優秀者による記念コンサートにも出演されます。



井上帆乃香さん

井上帆乃香さんからのコメント

この度は素晴らしい賞を頂けたことを光栄に思うと同時に身の引き締まる思いです。いつもご指導下さる先生方、友達や先輩後輩に心より感謝しています。大学入学時は、ちょうど新型コロナが流行し始めたころで不安な気持ちもありましたが、そのような中でも励まし合える仲間ができましたし、憧れの向山佳絵子先生のもとで集中して勉強することができました。支えて下さる皆様に少しずつでも恩返しをしていければと思っています。聴いてくださる方の心に寄り添える演奏家になれるよう、これからも日々精進して参ります。

呪怨・サスペリア・ベートーヴェン

齋藤 桂
日本伝統音楽研究センター 講師

先日DVDで『呪怨：呪いの家』（三宅唱監督・2020）というドラマを見た。入っただけで呪われるという家をテーマにしたもので、2000年のビデオ映画『呪怨』から始まる同名シリーズのドラマ版だ。このドラマで特徴的なのは、舞台となる1980年代と90年代に実際に起こった凄惨な事件のニュース映像が何度か登場することだ。呪われた家という非現実的な設定はもちろんフィクションだが、その裏にある人間の悪意が、どこかでそれら現実の事件の悪意と繋がっているかもしれないと思わせる演出だ。

このやり方を最近別のところで見たと思っていたのだが、リメイク版『サスペリア』（ルカ・グアダニーノ監督・2018）だった。この映画では、77年のベルリンを舞台に、魔女の支配するダンス学校で進むメインの物語の一方で、要所でドイツ赤軍（中心人物二人の名前をとってバーダー・マインホフ・グループとも呼ばれる）による一連のテロ「ドイツの秋」についての報道が挟み込まれる。ナチス時代を生き延びた魔女たちと、冷戦を背景としたテロリストたちとの対比を通して、観客に権力と暴力の偏在を印象づける。

リメイク版『サスペリア』でマインホフの名前を聞いて思い出す曲がある。フィンランドのバンドSIGの「ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン」という曲だ。84年のヒット曲で、サビに「ベートーヴェンがラジオで流れている／ベートーヴェンの第九が／誰もロックンロールも／ウルリケ・マインホフの死も聞いたことがない／そして僕はただただ眠っている」という一節がある。作詞作曲をしたマッティ・インキネン¹は、もし自分がドイツにいたらと仮定してこの詞を書いたのだという。ここから先は単なる妄想だが、もしこの曲の背景にふさわしい年を選ぶとすれば、『サスペリア』の時代、77年だろう。ウルリケ・マインホフは前年76年に獄中死している。77年はベートーヴェン没後150周年で、多くの記念演奏会が企画され、3月には前年完成したばかりの東



「ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン」が収められたSIG『Unelmia』（Pyramid, 1984）。

ベルリンの共和国宮殿で国際ベートーヴェン学会が開かれている。かげはら史帆『ベートーヴェン捏造』¹で描かれる、ベートーヴェンの会話帳の捏造疑惑が発表されたのがこの会合だ。「ロックンロール」に関して言えば、デイヴィッド・ボウイがこの年からベルリンで制作した三部作を発表し始める。マインホフを失ったドイツ赤軍による「ドイツの秋」は同年9月から始まる。そして翌78年には、若者の関心が政治から個人的内面に移行する象徴となった「何もしないといけない集会」（Treffen in Tunix）がベルリン工大で開かれている²。

このように列挙してからSIGの歌詞を読むと、人類愛を歌う第九が、魔女の学校や呪いの家と同じくらい非現実的なものに見えてこないだろうか。

だが、そのような非現実的なものにこそ、芸術は取り組んできたとも言える。現実から目を離せない人々に後ろから近づき、振り向かせるために。それが愛なのか呪いなのかはともかくとして。

¹ かげはら史帆 2018『ベートーヴェン捏造：名プロデューサーは嘘をつく』柏書房。

² 三島憲一 1991『戦後ドイツ：その知的歴史』岩波書店。



Profile | 齋藤 桂（さいとう・けい）

2009年度大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学・大阪大学）。京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター特別研究員（2010年度）、日本学術振興会特別研究員PD（東京大学、2011～2013年度）、同二国間交流事業特定国派遣研究者（シベリウス音楽院、2014～2015年度）、大阪大学大学院文学研究科助教（2016～2017年度）を経て2018年度より京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター講師。専門は音楽学。著書に『〈裏〉日本音楽史：異形の近代』（春秋社、2015）、『1933年を聴く：戦前日本の音風景』（NTT出版、2018）、近年の論文に「鈴木鼓村『耳の趣味』を読む」（細川周平【編著】『音と耳から考える：歴史・身体・テクノロジー』アルテス・パブリッシング、2021）、'Heavy Metal Scene in Osaka: Localness Now and Then' (Bryan Bardine and Jerome Stueart eds. *Living Metal: Metal Scenes around the World*, Intellect Books, 2022)。

新キャンパス、着々と建設中！

令和5(2023)年に予定していますJR京都駅東部への全面移転に向けて、令和3(2021)年から建設工事が始まり、順調に進んでいます。一部の建物は既に最上階まで鉄骨が組み上がっており、工事現場の囲いの外からもその姿を確認することができますようになりました。工事を施工する京都市と協力し、完成までしっかりと取り組んでまいります。



建設中の建物



工事現場の様子(京都タワーから)



建設中建物の最上階から

移転整備へのご支援をお願いいたします

京都芸大では、「京都市立芸術大学 移転整備募金」の活動に取り組んでおります。この募金にいただきましたご寄付は、新キャンパスの移転に伴い必要となる、作品制作のための機器や楽器の更新など、教育研究環境の充実のために活用させていただきます。皆様からの温かいご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

募金についてご不明な点がありましたら、移転準備室(TEL:075-334-2285)まで、お気軽にお問合せください。



移転整備募金ウェブサイト

<https://www.kcuu.ac.jp/contribution/itenseibibokin/>



制作機器や楽器の購入などに充てさせていただきます。



新任教員のご紹介

2021年9月より、環境デザイン専攻に島田陽准教授が着任しました。



島田 陽准教授
環境デザイン専攻

未来の芸術家支援 のれん百人衆

京都芸大で学ぶ学生の教育環境の充実のため、京都の老舗企業の皆様を中心に支援の輪を広げ、息の長い厚い御支援を頂戴しております。ご支援いただき誠にありがとうございます。*2021年8月-2022年1月にご寄付いただき、公表に同意いただいた方(敬称略、五十音順)

- 巖本 博
- 畑 正高
- 京都信用金庫
- 株式会社ハトヤ観光
- 株式会社ジョヴィ
- 株式会社フラットエージェンシー
- 医療法人知音会
- 渡辺 孝史
- 公益財団法人日新電機グループ社会貢献基金

退任のお知らせ

2021年度末に5名の教員が退任します。

退任記念企画

山本毅教授 退任記念コンサート
「打楽器は楽しい!オモロイ!ホンマやで。」

日時: 4月23日(土)14時~(2時間)予定
会場: 京都府立府民ホール アルティ
チケット料金: 一般2,000円 学生1,000円



上田 順平 特任講師
陶磁器専攻



野田涼美 特任教授
染織専攻



山本 毅 教授
管・打楽専攻



宇佐美朋子 特任講師
教職課程



渡辺信一郎 所長
日本伝統音楽研究センター

